出会い　ふれあい　助け合い

# サロン・あべの

＜サロン・あべの＞NO．46　　平成　2年　4月21日（土）発行

## おしゃれで拡がるコミュニケーション

＜サロン・あべの＞　3月の出会い

「韋駄天走りに春が来た」と言われ、各地から桜だよりが聞かれるようになった平成二年三月十七日（土）午後一時～四時、育徳コミュニティーセンター二階研修室に於て「おしゃれで拡がるコミュニケーション」と題し、パネラーにニットデザイナーのあいか彩子氏をお迎えして「おしゃれ」の話を中心に幅広いお話を伺った。

――〃色〃鮮やかな華やぎのサロン――

一歩、研修室に足を踏み入れた参加者は、「ウワー、きれい！」と感嘆の声。

黒一色のスマートなマネキン人形が、赤・黄・紺・青紫・濃いピンク・緑等々、色鮮やかなニット作品のパンタロンスーツや、フレヤースカートスーツを着て立ち並んでいる。可愛い小物のポシェットやボタン、リボン、フリルなどがエレガントに優しさを演出する。思わず見とれてしまう。

――旅行で見た　人間の尊厳――

爽やかな笑顔で、私たちに写真を見せて下さりながら、昨年二回にわたって行かれたイギリス・デンマーク・スエーデン・西ドイツ・東ドイツ等々の障害者の生活と社会福祉の話をしていただいた。

福祉の国と言われている英国でも、障害者専用の洋服を作っているところはなく、たいていのところは、製品をリホームする時にカッティングで工夫をしているらしい。

その話の中でデンマークのスミレスハンというところに五〇年の歴史を持った障害者専用の服を作っているアトリエがあると聞いて、訪問された。アトリエでピンクやブルーの色が美しい生地を見せてもらったり、カッティング等の話をしている間に時間が瞬くまに過ぎ、お互いの国の福祉政策にまで話がはずみ、温かいつながりが生れた。

スエーデンは、貧しい国であったが、民衆の中から政治が生れて、高い税金（40～50％）負担があるが、それなりに年金も充実しており住みやすいとのこと。

他の国の施設訪問や在宅生活者の家を訪問して感じられたことは、カラフルな色や

シンプルで機能的なデザインが豊富にあって、選べる自由が障害者にもあったこと。宗教的な歴史があるからかもしれないけれど、人間の尊厳という基本がきちんと考えられている社会が、本当の社会福祉の充実した社会と言えるかもしれないと感じられた。

――十二人の花の妖精たち――

鮮やかな色でありながら、深みがあり落ち着きが感じられるニットの試作品は、パンジーやフリージヤ、バラ、チューリップの花の妖精のように見える。

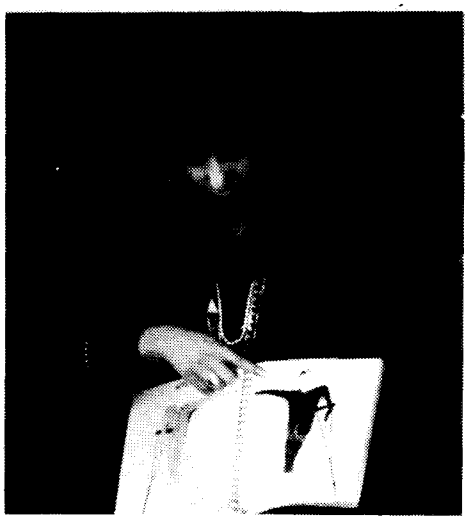
ファション性をそこなう事なく、女性障害者（特に車イス使用者）が着やすいようにと、隠れたところに様々な工夫が施された十二人の花の妖精たち。

一・紺紫色のパンタロンスーツ＝ズボンの着脱が楽なように、両サイドの開きファスナーが深い。又、ファスナーを下した時ズボンがズリ落ちないよう前の部分だけウエストでゴム止め。上着はマジック止め

二・黄色のサルエルパンツスーツ＝フリルとリボンで可愛く深めの股上が車イス使用

――あいか彩子氏のこと――

大阪は難波の高島屋百貨店で、ニットオーダーサロン『アトリエあいか』を主宰される他、デザイン学校の講師や執筆活動等もしておられる多忙な日々の中、何か社会の役にたちたいと考えられ、十年程前からボランティア活動として、視力障害者の対面朗読をしたり、生命の電話に関わったりしてこられた。将来はホスピスのカウンセラーになりたいと考えたりもしておられる



視力障害者から肢体障害者を紹介され、服装の相談を受ける機会があった。その人は、人に見られることを意識していつも目立たない色の服装をしていると言われた。それを聞いて「同じ目立つならファッショナブルに目立ちましょうよ」と提案して、あちらこちらと障害者用の品物を探して歩いたけれど、障害者の着る物は機能面ばかりが強調されていて、おしゃれに程遠い物ばかり。ならば、今の仕事を生かして何か役に立つことが出来るのでは、と考えられた。

さっそく障害の特長に応じた機能的で着易さを配慮しながら、ファッション性に富んだおしゃれな作品を製作される。それを昨秋京都で開催された「福祉機器デザインコンペ」に出品、優秀賞と京都府知事賞を受賞された。

「障害者に着易い服は、誰にでも着易い服。誰もが着たくなるようなファッショナブルな服をめざしたい」とハンディキャプトファッションを世の中に提案するために、今秋ファッションショーを予定されている。

者には嬉しいデザイン。
三・赤色の巻きスカートのツーピース＝襟明きがシンプルな上着に、打ち合わせたっぷりのフレヤースカート。マジック止め。
四・グリーンのドルマン袖の上着とズボン＝角に空いた襟ぐりの前ヨーク部分はゴム編みで、かぶりやすくなっている。
五・紫色のジャンプスーツ＝一般に作業服に見られているツナギがネックラインとバックウエストラインにピンクのアクセントカラーが入りスマートなおしゃれ着になっている。前開きは、ファスナー一本。後ウエスト部はマジックテープで上下に分れトイレ介助がしやすいようになっている。
六・ピンクの優しいツーピース＝丸襟にリボンがついて前打ち合わせがフリル。スカートは深い打ち合わせの巻きスカート。
七・グリーンのサルエルパンツと衿フリルの上着＝アームホールの止めがゴムになっているので伸縮がきき着脱が楽、前立てはマジックテープ止め。飾りボタンが可愛い。
八・赤色のキュロットスカートとドレープ衿の上着＝たっぷりのドレープが入った衿とフレヤースカートを思わせるキュロットスカートが優しく映える。
九・花紺色の巻きスカートと上着＝衿まわりにゴムが入り、ギャザーになって着脱が楽。スカートは八枚はぎのたっぷりとした打ち合わせ、前の裏地はスベリよい物、後ろの部分はスベリにくい生地を使用して、車イス使用時の安定した座りを考えている。
十・黄色のパンツスーツ＝細目のズボンの裾脇にファスナーが付いて楽にはける。
十一・赤色のフレヤースカートのツーピース＝ネックラインから前立てと袖口にかけて細かいフリルが付いている。一見、フレヤースカートに見えるが裾を気にしなくてもよいキュロットスカートになっている。
十二・紫色のズボンスーツ＝かぶり型になった上着のネックラインは、ピンクのトリミングがアクセントになっている。着脱が楽なように背中の部分がゴム編みになっている。スボンの股上は深い。

――たくさんの自分を見つける――

おしゃれには、健常者、障害者の区別はなく、お互いに華やいで生きていくのが大切であり、みんなで相手の痛みを考えていきたい。「私は、こうだから」という観念を持たず、華やかな色でも服や小物に取り入れていく試みは、新しい自分との出会いともなるので、多くの可能性を求めてたくさんの自分を見つけていって欲しい。

赤は、活動的。黒は、シック。神秘的な色は、何色？…。ディスカッションの中では、色にデザイン等々に各自の望みが多く語られ、その一つ一つに快く答えて下さったあいか氏は、秋のフッションショーでそれらを形にして見せて下さるとのこと。モデル候補になった男性方は、その喜びもひとしおの感。心身ともにおしゃれ感覚を充電した想いを抱いて閉会となったが、作品の前には、「ステキ、着てみたい」と立ち去りがたい参加者の声が残った。

この日の参加者二六名。
司会は山本篤江さん

＃感謝します＃

カンパ・切手・冊子等、ご協力ありがとうございました。お礼を申し上げます。

三月のカンパ　金二〇〇〇〇円
安達尚子、岡　知史、塚脇小由美
丸山寿美子、森　公子、矢嶋博士、
匿名二名様。（敬称略）

# 回顧 '89

## サロンの出会い

サロン・あべのでは、昨年こんな出会いがありました。
思い出話に花を咲かせ、ふれあいの輪をひろげてください。

| 月日 | 参加数 | 出会い |
|---|---|---|
| 四・十五 | 十二 | ☆こんなところにも消費税が＝岩永清滋氏（公認会計士）を迎えて、消費税の目的、仕組み、問題点等を聞く。　於：研修室 |
| 五・二〇 | | ☆ダッハらんど（堺市大仙公園）見学＝雨で中止。 |
| 六・十七 | 十七 | ☆トーキングエイドからはじまるコミュニケーション＝川上博久（電子工学博士）氏が開発されたトーキングエイドに関するエピソードあれこれを聞く。　於：研修室 |
| 七・十五 | 二〇 | ☆私のコミュニケーション＝参加者が主役になってそれぞれの交流の輪を語り合う。　於：研修室 |
| 八・十三 | 多数 | ☆あべのカーニバル「なんでも市」＝サロンのバザー店を出し多くの方々との出会いと交流を持つ。　於：工芸高校グランド |
| 九・十六 | 三三 | ☆地域とコミュニケーション＝定藤丈弘（府大社会福祉学助教授）氏にコミュニケーションの意味と役割についての話と留学 |

## カラフルな作品に夢を見る

中野君江

「三月の出会い」出席の為に会場に向う。ここ二、三日春めいて、流石お彼岸が近ずいた事を肌に感じる。

会場につき一歩部屋に入るなり、ウワーと驚いた。何と何と、十二、三点のカラフルな洋服が飾りつけられてある。赤色・黄色・青色・みどりと普通のデザインと何ら変る事がない様に見える。時間が来て、あいか彩子先生のお話が始まった。とってもわかり易く、写真を見せていただきながら、色々なお国の福祉の話に時間のたつのが早い。私は障害があってもやはり女性。おし

| | | |
|---|---|---|
| | | されていたパークレーの話等を聞く。　於：研修室 |
| 十・二一 | 二八 | ☆太古の歴史と今の自然にふれあって＝昔々大阪湾に鯨がいたという証拠の化石を見る。この後芝生広場でお弁当を広げ、米国の青年ボランティアの方との交流も。　於：長居植物園 |
| 十一・二五 | 二三 | ☆ふれあい交流会＝あべのボランティア・ビューローと区社協の主催でボランティアと老人・障害者が、センターの職員の指導でグループゲームをして楽しむ。於：身障スポーツセンター |
| 十二・九 | 三八 | ☆クリスマス　IN　サロン＝クイズ形式の自己紹介で各自の人柄に接したり、米国青年ボランティアのクイズで楽しんだり、サンタのプレゼント等々、ビデオ撮影（植松氏）。於：研修室 |
| 一・二〇 | 二五 | ☆ホノボノたのしい新年会＝ステーキランチの食事後、祝い言葉クイズで楽しむ。　於：あべのベルタ「E・FLAT」 |
| 二・十七 | 十九 | ☆思い出をふたたび＝「クリスマスINサロン」と「身障者は今（井上憲一氏とセルフ社）NHKTV」のビデオ観賞。於：研修室 |
| 三・十七 | 二六 | ☆おしゃれで拡がるコミュニケーション＝あいか彩子（ニットデザイナー）氏を迎えて、こだわりを持った〝おしゃれ〟と福祉について、外国の様子も交えての話。あいか氏のデザインされたニット作品十二点も展示。　於：研修室 |

ゃれには興味があり、明るい色、着易い服をと、心掛けていても家の中の生活が多いため、人様に見せるのでないからとおしゃれもしない。でも、今日の勉強でせいぜいおしゃれをする心になりました。

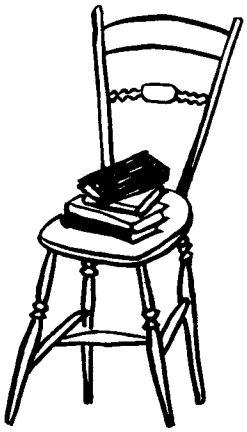
一つ一つ作品番号順に説明があり、工夫したところを紹介されましたら、あちらこちらから「あの〇番がいゝ、この番号が」と、お隣りさんとの声がする。そうだ、私もこれから心機一転して年齢に関係なく明るい色を使ったり、大柄な花模様を着こなしてみたい。年齢より五つ六つ若く見える様、身も心もはりきります。そして心うきうき。今迄外出しても、食堂に入る事もなく、まして喫茶店など夢だったけれど、これからは店内の椅子の高さやテーブルの配置も心配せず、勇気を出して入って見る事にします。

この頃少しずつ冒険心が出て、何でもしてやろうと思う気になりました。

あいか先生のファッションショーも開かれますとか、今から楽しみにしています。

車イスでのファッションショーは、今迄に見た事がなく、盛大な事をお祈りいたしております。

# 何もなかった幸せ



ぼくが以前から考えているのは、「何もなかった幸せ」というものが、どこまで本当の幸せなのだろうかということである。

「何もなかった幸せ」というのは、短大や専門学校の学生さんたちのレポートを読んでいると、必ず出てくるテーマである。

例えば、障害をもっている人たちや、家庭の問題で悩む子供たちの映画などを見せて、その感想文を書いてもらうと、その映画の内容にかかわらず、「自分にはそういうことはなかった。自分の幸せに気がついた」という言葉がしばしば出てくる。

彼女たちのいう「幸せ」とは何なのだろう。偏見と差別的な気持ちから「不幸」のイメージをつくりあげ、それが自分の生活には「ない」のだと感じたときに、彼女たちがいう「何もなかった幸せ」とは、本当は実に底の浅い「幸せ」なのではないだろうか。

ぼくは、ときどき逆に「何もなかった不幸せ」を考えてみたらどうかと、意地わるく聞いてみたくなる。肩を抱き合いしみじみと涙を流したほどの喜びや、感動や、人との出会いを体験しないままに、自分の日常生活をまるで他人を見るような冷めた目で見つめている人々は、「何もなかった」として、はたして「幸せ」なのか、「不幸」なのか。

アルコール依存症の人の話しをぼくは聞いたことがある。彼は、そのとき、自分がいちばん悔しいのは、この十年間自分には「何もなかった」ということだと言っていた。普通の人なら、楽しいことがあり、悲しいことがあり、さまざまな人との交流があり、という年月を過ごすのだが、その人は、いつも酒に酔っていて、何も経験しなかったのだという。

何もないままに十年という年月を過ごすことがありうるのだということを知り、ぼくは大きなショックを受けていた。

しかし、何もないままに生きてしまうことは、アルコール依存症の彼でなくても、他の人にもあることではないか。そう思うと恐ろしくなる。

「何もなかった不幸せ」は根が深い。何か具体的な生活の問題があって、そこから満足できない状態が続いているのなら、解決する道すじや、共に手をとり助け合っていく仲間も見つかるはずだ。しかし、何もないままに時間を過ごしてしまっている毎日から抜け出すのは、かなり難しいと思う。

何もないままに時がすぎる。その焦りや、やり切れない思いを誰にどう伝えたらいいのか。その孤独感や、絶望感をどう表現すればいいのか。「何もなかった不幸せ」は、静かな満ち潮のように人を追い詰め、その心を蝕んでいくものなのかもしれない。

いや、それともそれは、渇いた砂漠のなかに植えられた造花のような、あるいは、無表情な小動物の目に浮かぶ風景のような、空虚で、透明なものなのかもしれない。

とすれば「何もなかった不幸せ」は、きっと「何もなかった幸せ」のすぐ隣りにあるのではないか。「自分には何もなかったから幸せだった」という人が、「何もなかった不幸せ」を感じる日は、決して遠くはないと思うのである。

（知）

# なんとかしてくれ

上平幸雄

『悲しいニュース・怖いマスコミ』

三月の初めごろ、とても悲しいニュースが流れました。住吉区に住む若い母親が、育児ノイローゼから自分の赤ん坊を死なせてしまったのです。ショッキングな出来事だけに、新聞やテレビといったマスコミが大きくとりあげていました。

しかし、この母親の目が不自由だったことから、このニュースはただの悲しいニュースでは済まなくなりました。

育児ノイローゼというのは、程度の差こそあれ、母親なら誰でも経験することだろうと思います。目が不自由でなくとも、子育てに自信をなくすことはあると思います。しかし、マスコミの今回の報道は、この母親の目が不自由だったことを明らかに強調したものでした。警察が発表した「目が不自由で子育てに自信がなくなった。」という母親の自白にも問題が残ります。

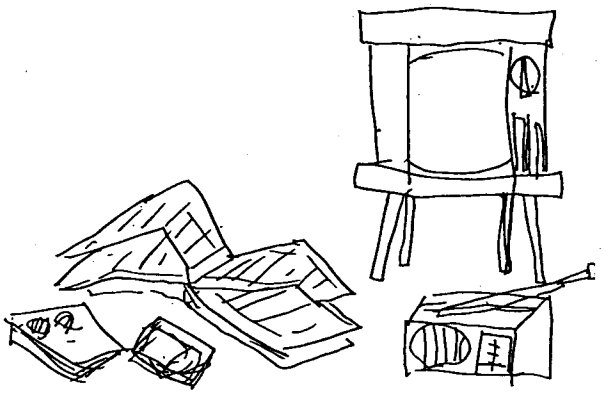
自分の赤ん坊を自分で殺してしまうほど、この母親を精神的に追い込んだものが何なのか。夫との関係、嫁と姑の関係、彼女自身の性格など、いろいろな原因が複雑にからみあっていたと思います。目が不自由だったことは、そのたくさんの原因の中の一つにしかすぎないのではないでしょうか。

埼玉県でおきた幼女連続誘拐殺人事件の容疑者に対しても、マスコミは彼の手が不自由なことをとりあげて、犯行の動機に結び付けようとしているような気がしてなりません。

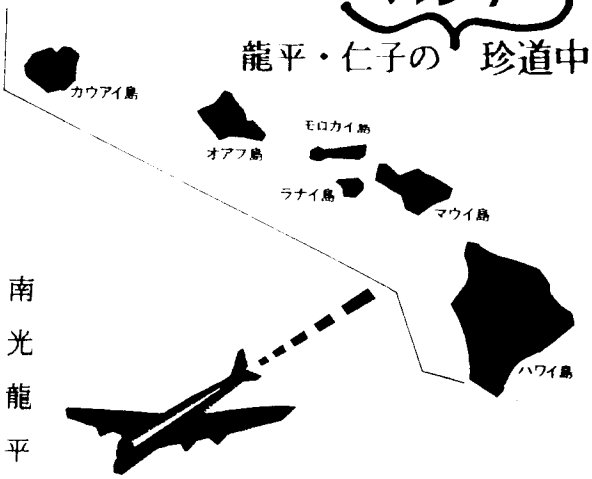
［障害者］に対して一般の人達がもつイメージは決して良くありません。ただでさえ悪いイメージのところへ、今回のこのマスコミ報道が与えた影響はかなり大きいものがあると思います。視力障害者に対するイメージダウンは確実です。

人によっては「やっぱり視力障害者に子育ては無理なんだ。」という考えをもったかもしれません。目が不自由なことを理由にさらに強く結婚を反対されるカップルもいるでしょう。

マスコミ報道が間違っているとは言えません。しかし、マスコミの報道によって障害者に対するイメージがさらに悪くなる場合があります。そして、その悪いイメージがさらに差別を生み出すとすれば、ニュースは単なるニュースではなくなってしまうのです。



# ハワイ 龍平・仁子の珍道中 ⑥




## ダンスしたかったのに…

南光龍平

言うまでも無い事だが、世界有数のリゾート地ハワイには数多くの観光名所がある。

ワイキキビーチしかり、ダイヤモンドヘッドしかり、そして今では真珠湾もまた観光客が多く訪れ賑いをみせる。さらにはガイドブックに必ず登場する、ポリネシアカルチャーセンターやアラモナショッピングセンターというような観光施設が至るところに用意されている。しかもそれらが、あんまり大きくないひとつの島の中に収まっていて、まさにパック旅行にぴったり、そしてそんな旅行が大好きな日本人にぴったり、なのかも知れない。

もう一つ観光施設とは言えないが、日本人の観光客が多く参加するものにサンセットクルーズがある。夕暮れのホノルル湾を船で一周し、太平洋に沈む夕日を眺めながら食事を取り、その後でフラダンスなどのショーを楽しむといった趣向。手軽に南国ムードを味わえる。

もともと三日目は、自由行動で「どうぞ各自お好きなところへ」といくはずだったのだが、いざ当日となるとやはりというべきか、どうしてもというべきか、しっかりと「日本人観光客」してしまう。

結局、昼間はアラモアナショッピングセンターを右へ左へ、せっせと買い物に精を出し夕方からは、日本風に言えば屋形船のような格好の船に乗ってサンセットクルーズを楽しむ。全員一致の団体行動に落ち着いた。一応、添乗員のNさんは同行しないという事だったが、やはり私達だけでは不安だと思われたのか、ショッピングセンターまでそれとなくついてこられて、あれこれ案内してくれて有り難かった。

ところで私は前にハワイを訪れたときにも、同じ船（車椅子でも行けるトイレがついている船を選ぶのでそうなるのですが）でクルージングを楽しんで、ショータイムも大いに盛り上ってお客も一体になってダンスに興じたものだった。中でも、友達のお母さんが大ハッスル、一躍みんなの注目を浴びたり、船の乗務員の人達が手を取ってくれて車椅子にのっている私も一緒にダンスの輪のなかに入ったり、人一倍お調子

乗りの私にとってその旅行のなかでも一番と言えるほど、とにかく楽しい思い出になった。

ところが、今回は比較的おとなしいお客が多かったせいか、ゆったりと沈む夕日を眺めのんびりとショーを楽しむといった雰囲気。

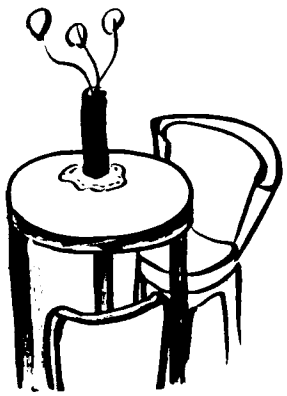
「二回目だし、こういうのも又いいかな」と思いつつも、やはり何か物足りなさを感じながらホテルへ戻った。

ホテルで出迎えてくれたNさん、「しばらく休んでから下に降りて来ませんか。ラウンジでバンド演奏があるそうなんで一緒に聞きませんか。」と誘ってくれる。

本当は少し疲れていたのだが、サンセットクルーズに物足りなさを感じていた私は、一も二も無く、その誘いに乗ることにした。

（つづく）

## 美智子のこんな話



### 活伊勢えび事件…？

岸田　美智子

昨年の九月からはじめた「施設の障害者外出サービスネットワーク」ですが、その外出の度に施設障害者と介助者の間で色々な事件というか、考えさせられる出来事が起こっています。今回はその中の一つ「活伊勢えび料理が食べたい！」という要求の事を書いてみます。

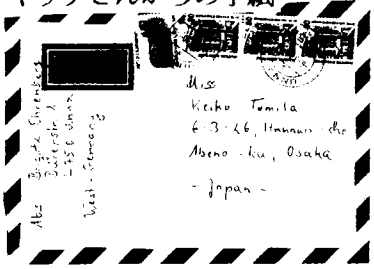
ある療護施設のWさん、C・P・で五〇歳くらいの車椅子の女性障害者の方なのですが、ある外出日のお昼ご飯に、突然なんと一人六〇〇〇円もする、活伊勢えび料理が食べたいという事になりました。この施設障害者外出介助サービス事業では、今のところ介助者の飲食代は各自の負担という事になっているので、この時の介助者がこの六〇〇〇円には、ついていけず外のお店の二〇〇〇円の物に落ち着いたのでした。

でも、このWさんはこの外出サービスで外出するまでは、ほとんど個人的な外出をした事がないのでした。だから、体験不足などもあり、安易にぜいたくな障害者だとして片付けられないのです。ひょっとすると、活伊勢えび料理を食べる事が、長年の夢だったのかも知れません。

前もって活伊勢えび料理を食べたい介助者が見付かればいいし、そのお店で違う安いメニューがあればいいのですが…。または、店の人に言って介助者は何も食べないとか、この場合、障害者が気を使ってしまうのではないかなどと色々な意見が出ました。この時も介助者の分も出してもいいから食べたいと、Wさんは言っていたそうですが、介助者がそれではすまなくて、食べられないという事になって、Wさんが諦めるしかなかったのでした。

たまにはぜいたく出来る自由を、いつでも持っている介助者と、その自由が全くない施設障害者の違いは、どうして行けばいいのでしょうーーー？

## 西独　ブリギッテさんからの手紙




お手紙ありがとう。クリスマスにあなたにお手紙を差し上げなかったこと、ごめんなさいネ。なぜなら、私の生活にあまりに多くの変化があったので、そのことを忘れてしまっていたのです。

１月以来、私は精神科の病院に勤めています。このことは、私が４才の時、病気になって以来、最初の仕事なのです。この仕事は、私の生活をすっかり変えてしまいました。病院は、ウンナから５５KM. 離れたヘルンという町にあります。それで、私は、毎日２時間ドライブしなければなりません。それから、私は８時間半働かねばなりません。それで、私はグループ活動の時間をほとんど持てなくなりました。さらに、私は新しいアパートメントをヘルンに見つけようと思っています。そうなると、ますますグループから遠ざかることになるでしょう。けれども、私は、私たちの文通を続ける他の人を探すつもりです。

私のこの前のグループとの交流は、クリスマスパーティーでした。私たちは、ケーキとコーヒーで祝った後、プレゼントの交換をしました。又、近親者たちも招かれました。私たちは、バザーはしません。次のミーティングは、１月でした。しかし、私はこの時すでに働いていました。

Unna, 5th jan.

Dear Keiko!

Thank you very much for your letter. I am sorry that I didn't write to you at Christmas, but there are so many changes in my life that I've forgotten it.
Since January I am employed at a psychiatric hospital. This is my first job since 4 years since my disease. This job changes my whole life. The clinic is 55 kilometres from Unna, in a town called Herne. So I must drive two hours every day, then I must work 8 ½ hours and so I haven't any time for group activities. Besides I try to find a new appartement in Herne and then I wouldn't anylonger participate in our group. But I look for another person who will continue our writing contact.
My last contact to our group was on our Christmas party. We celebrated with cake and coffee and presents for each member. The relatives were also invited, but we had no bazar. The next meeting was in January, but at this date I've already worked.
Now to the weather. In this year we have a "crazy" winter. There isn't any snow, the temperature is like in spring. Therefore flowers blossom everywhere. Besides there are already 5 oceans this year and many people think of a climatic catastrophe, caused by pollution. I am very happy about the weather, because I am afraid of driving in snow.
Now I will end. I hope you will find such a good contact to another group member as we have together.
All the best wishes for your future!

Yours Brigitte

さて、気候のことですが、今年は気違いじみた冬でした。雪が少しも降らず、気温は春のようでした。それ故、いたるところに花が咲いています。多くの人々は、気候の大異変であり、原因は（大気の）汚染だと思っています。

このお天気は、私にとっては、大変幸せでした。なぜなら、私は、雪の中のドライブがこわいからです。

そろそろ、筆をおきましょうか。私たちが共に続けてきたように、ステキな文通ができるような他のメンバーが見つかることを望んでいます。

あなたの幸福をお祈りしています。

ブリギッテより

## おしらせ

〈サロン・あべの〉五月の出会い

日　時＝平成二年五月十九日（土）
　　午後一時～四時
場　所＝育徳コミュニティーセンター二階
　　研修室（ｽﾛｰﾌﾟ・車ｲｽ有り）
内　容＝「あべのボランティア・
　　ビューローの役割と活動」
　　パネラー＝ﾋﾞｭｰﾛｰﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ　前田博子氏
会　費＝な　し
問合わせ＝電話〇六－六九一－一〇二八
　　（冨田慶子）

∞サロン・あべの紙の
　　朗読テープが出来ました∞

「阿倍野区ボランティア連絡協議会」の朗読グループのご協力により、サロン・あべの紙の録音テープを作っていただいています。バックナンバーは三八号から、四五号の分があります。サロン紙朗読テープご希望の方は、冨田までお申し出下さい。
（TEL06-691-1028）

## 〝おしゃれ〟っていいね　を読んで

町野旬子

糀谷終一さん　赤のフレームに黒のシートのカラフルな車イスに乗っておられる貴方は、情熱的な人なのですか。それとも、お書きになっておられた様に、「人に目立たせたかったから」が、本当ですか。

二月二十三日付け、朝日新聞の「ひととき」欄に、脳梗塞で左半身マヒになった三三歳のご主人の補助杖を歩行用補助具としてでなく、おしゃれ心を持った物（木の杖、パステルグリーンの杖等）として、季節に合わせて買い求めている。個性に合った杖を持てば、杖つく人生もまた楽しいのでは…と言う話が掲載されていました。杖のように車イスをもう一台とは、無理なことでしょうか。

最近、自転車のハンドルに傘を取り付けて乗ってられる方がおられますね。車イスにも大き目のカラフルなゴルフの傘など…でも、なんだかチンドン屋さんの傘の付いた鐘・太鼓が頭に浮び、笑えてきました。

――ゴメンナサイネ！――

でも、又新しいおしゃれをお考えになられ、気分一新ルンルン気分での外出を楽しまれますように。

山本篤江さん　昨今、ブランドものでもなければ、おしゃれじゃないと思ってる人が少なくないのではないでしょうか。

隠れたおしゃれは、真のおしゃれ。私も同感です。下着の裾が出てないかしら…、そんなのではなく、誰にも見せないから可愛くすばらしい下着を着けてますのよ。ウッフンて言うおしゃれもいゝですよ。

おばたりあんの私も、こんなおしゃれを楽しんでいます。


＜サロン・あべの＞第４６号
発行日　平成　２年　４月２１日（土）
発行・編集＜サロン・あべの＞運営委員会
［大阪市阿倍野区阪南町6-3-26
電話(06)691-1028冨田慶子］
印　刷　セルフ社　電話（06)691-2365
［阿倍野区西田辺２－２－１０
グレース鶴ヶ丘１０１号］
定価　￥６２．

# おめでとう、そして ありがとう。

＜サロン・あべの＞は、今年度で五周年目に入りました。障害者の地域参加を目標に、毎月の出会いを持ち、多くの方々とのふれあいが生れてきました。この喜びを時のままに流れることなく、一つの形に残したいと、二つの企画を立てました。

皆様のご協力をお待ちしています。

（五周年記念事業）

□「なんとかしてェ～な」のビデオ製作

サロン・あべの紙に掲載されている「なんとかしてェ～な」のビデオを作成します。シナリオ・演出・撮影等に関心のある方お手伝い下さい。（担当＝原田　仁）

□　五〇号記念紙発行

サロン・あべの紙五〇号を記念紙として発行します。サロンのテーマ「出会い・ふれあい・助けあい」を基にして、自由に書いていただきたいと考えています。

サロンに関わりを持って下さっている皆様全員にご投稿をお願いします。

＊字数＝「ひとこと、ふたこと」の言葉から十行（二〇〇字内）まで。

＊締切り＝平成二年六月二〇日

（担当＝石田　律）

○問合わせ先＝TEL〇六－六九一－一〇二八

（冨田慶子）